



《巻頭写真》修理・移転された玄武山普濟寺の国宝「石幢」(六面石幢)

(写真提供・玄武山普濟寺)

左：多聞天像の面からみた「石幢」の全体

右：六面に彫刻された護法善神たち(阿形・吽形の仁王像と多聞天・持国天・広目天・増長天の四天王像)  
(関連6頁【特集2】を参照)

[目次]

・巻頭写真・目次	1
・【特集1】開館40年をむかえた資料館の事業	2
・【特集2】普濟寺国宝石幢を守り伝えていくこと	6
・令和7年度 歴史民俗資料館の催し	10
・令和7年度 川越道緑地古民家園の催し	12

## 【特集1】

# 開館 40 年をむかえた資料館の事業

立川市歴史民俗資料館は、昭和60(1985)年12月1日に開館し、令和7(2025)年12月に開館40年をむかえました。立川に関わる資料の収集・保管のほか、展示や体験学習など郷土の歴史や文化への理解と関心を深める教育・普及活動を行い、開館以来33万人もの方に来館いただきました。

近年では、企画展や体験学習、講演会のほか、郷土の歴史や文化の魅力を多くの方に伝える取り組みとして、出張展示や出前講座、小学校と連携した出張授業、ほかの博物館と協働で展示会を開催するなど、資料館から資料や学芸員が出向いた事業にも力を入れています。

数年前のコロナ禍には、画像映像資料のデジタル化に合わせ、展示や体験学習のデジタル化を試みましたが、実物の資料を観て触れて体験することによって得られる感動に優るものではありません。今後も資料館ならではの魅力的な事業活動を開催していけるように努めてまいります。

なお、過去10年間の企画展開催については下表のとおりです。

『資料館だより第20号』（平成28年3月）特集「特別展・企画展にみる資料館30年」には、開館から30年間にわたる企画展等の開催を掲載しています。

### 企画展一覧表〈平成27年度から令和6年度〉

#### 平成27(2015)年度

展示名(副題省略)	期間	場所
ミニ企画展 端午の節句	平成27年4月11日~5月6日	ラウンジ
企画展 新収蔵品展	平成27年5月19日~6月21日	特別展示室
企画展 立川の遺跡 2015	平成27年7月22日~9月6日	特別展示室
ミニ企画展 砂川闘争肖像画展	平成27年10月1日~12月6日	ラウンジ
企画展 中世の立川	平成27年10月24日~12月6日	特別展示室
ミニ企画展 ちょっとむかしのくらしとその道具	平成27年12月22日~1月24日	ラウンジ
ミニ企画展 桃の節句	平成28年2月2日~3月6日	ラウンジ

### 平成 28(2016)年度

展示名(副題省略)	期間	場所
ミニ企画展 端午の節句	平成 28 年 4 月 12 日~5 月 8 日	ラウンジ
企画展 新収蔵品展	平成 28 年 5 月 24 日~6 月 26 日	特別展示室
企画展 立川の遺跡 2016	平成 28 年 7 月 20 日~9 月 4 日	特別展示室
写真展 立川の文化財	平成 28 年 10 月 12 日~12 月 11 日	廊下掲示板
企画展 しばざき・すながわの絵図	平成 28 年 10 月 22 日~12 月 11 日	特別展示室
ミニ写真展 立川の風景と人のいとなみ	平成 28 年 12 月 13 日~1 月 9 日	廊下掲示板
ミニ企画展 桃の節句	平成 29 年 2 月 7 日~3 月 5 日	ラウンジ

### 平成 29(2017)年度

展示名(副題省略)	期間	場所
ミニ企画展 端午の節句	平成 29 年 4 月 11 日~5 月 7 日	ラウンジ
企画展 新収蔵品展	平成 29 年 6 月 13 日~7 月 9 日	特別展示室
企画展 立川の遺跡 2017	平成 29 年 7 月 19 日~9 月 3 日	特別展示室
企画展 立川の水路を探る	平成 29 年 10 月 21 日~12 月 10 日	特別展示室
ミニ写真展 立川の風景と人のいとなみ	平成 29 年 12 月 12 日~1 月 8 日	廊下掲示板
企画展 暮らしと道具	平成 30 年 1 月 16 日~2 月 18 日	特別展示室
ミニ企画展 桃の節句	平成 30 年 2 月 6 日~3 月 4 日	ラウンジ

### 平成 30(2018)年度

展示名(副題省略)	期間	場所
ミニ企画展 端午の節句	平成 30 年 4 月 10 日~5 月 13 日	ラウンジ
企画展 新収蔵品展	平成 30 年 6 月 12 日~7 月 8 日	特別展示室
企画展 立川の遺跡 2018	平成 30 年 7 月 24 日~9 月 2 日	特別展示室
企画展 ”空の都”たちかわ	平成 30 年 10 月 23 日~12 月 2 日	特別展示室
写真展 立川の風景と人のいとなみ	平成 30 年 12 月 11 日~2 月 17 日	廊下掲示板
企画展 暮らしと道具	平成 31 年 1 月 16 日~2 月 17 日	特別展示室
ミニ企画展 桃の節句	平成 31 年 2 月 5 日~3 月 3 日	ラウンジ

### 平成 31(令和元、2019)年度

展示名(副題省略)	期間	場所
ミニ企画展 端午の節句	平成 31 年 4 月 9 日~5 月 12 日	ラウンジ
企画展 新収蔵品展	令和元年 6 月 11 日~7 月 7 日	特別展示室

企画展 立川の遺跡 2019	令和元年 7月 23日~9月 1日	特別展示室
企画展 記念物 100年	令和元年 7月 30日~9月 1日	廊下掲示板
企画展 立川てんしゃば物語	令和元年 10月 22日~12月 15日	特別展示室
写真展 立川の風景と人のいとなみ	令和元年 12月 10日~2月 16日	廊下掲示板
企画展 暮らしと道具	令和 2年 1月 15日~2月 16日	特別展示室
ミニ企画展 桃の節句	令和 2年 2月 4日~2月 29日	ラウンジ

新型コロナウイルス感染拡大により令和2年3月1日から臨時休館となり、「桃の節句」の会期が変更されました。

## 令和2(2020)年度

展示名(副題省略)	期間	場所
ミニ企画展 端午の節句	一般公開中止	
企画展 新収蔵品展	令和 2年 6月 16日~7月 12日	特別展示室
企画展 立川の遺跡 2020	令和 2年 7月 21日~8月 30日	特別展示室
企画展 記念物 100年	令和 2年 7月 21日~8月 30日	廊下掲示板
とんからりんはた織りまつり企画展	令和 2年 9月 8日~10月 11日	特別展示室
企画展 東京 1964 オリンピック	令和 2年 10月 27日~12月 13日	特別展示室
写真展 文化財写真展	令和 2年 10月 27日~11月 29日	廊下掲示板
写真展 立川の風景と人のいとなみ	令和 2年 10月 8日~2月 14日	廊下掲示板
企画展 暮らしと道具	令和 3年 1月 19日~2月 21日	特別展示室
ミニ企画展 桃の節句	令和 3年 2月 2日~3月 7日	ラウンジ

## 令和3(2021)年度

展示名(副題省略)	期間	場所
ミニ企画展 端午の節句	令和 3年 4月 6日~4月 24日	ラウンジ
企画展 新収蔵品展	令和 3年 6月 15日~7月 11日	特別展示室
企画展 立川の遺跡 2021	令和 3年 7月 27日~9月 5日	特別展示室
企画展 立川飛行場と陸軍航空本部	令和 3年 10月 26日~12月 12日	特別展示室
写真展 立川での昔の暮らし	令和 3年 12月 7日~2月 13日	廊下掲示板
企画展 昔の暮らしと道具	令和 4年 1月 18日~2月 20日	特別展示室
ミニ企画展 桃の節句	令和 4年 2月 1日~3月 6日	ラウンジ

新型コロナウイルス感染拡大により令和3年4月25日から臨時休館となり、「端午の節句」の会期が変更されました。

## 令和4(2022)年度

展示名(副題省略)	期間	場所
ミニ企画展 端午の節句	令和4年4月5日~5月8日	ラウンジ
企画展 新収蔵品展	令和4年6月14日~7月10日	特別展示室
企画展 立川の遺跡 2022	令和4年7月26日~9月4日	特別展示室
企画展 多摩川と立川	令和4年10月25日~12月11日	特別展示室
写真展 なつかしの立川	令和4年12月6日~2月12日	廊下掲示板
企画展 暮らし	令和5年1月17日~2月19日	特別展示室
ミニ企画展 桃の節句	令和5年1月31日~3月5日	ラウンジ

## 令和5(2023)年度

展示名(副題省略)	期間	場所
ミニ企画展 端午の節句	令和5年4月4日~5月7日	ラウンジ
企画展 新収蔵品展	令和5年6月13日~7月9日	特別展示室
企画展 立川の遺跡 2023	令和5年7月25日~9月3日	特別展示室
企画展 街のかたち	令和5年10月24日~12月10日	特別展示室
写真展 なつかしの立川	令和5年12月5日~2月18日	廊下掲示板
企画展 暮らしのなかの道具たち	令和6年1月16日~2月18日	特別展示室
ミニ企画展 桃の節句	令和6年1月30日~3月3日	ラウンジ
企画展 旧砂川学習館 歴史と文化の資料コーナー巡回展	令和6年3月12日~3月31日	特別展示室

## 令和6(2024)年度

展示名(副題省略)	期間	場所
ミニ企画展 端午の節句	令和6年4月2日~5月6日	ラウンジ
企画展 新収蔵品展	令和6年6月11日~7月7日	特別展示室
企画展 立川の遺跡 2024	令和6年7月23日~9月1日	特別展示室
企画展 立川の文化財	令和6年10月22日~12月1日	特別展示室
ミニ企画展 青梅線の始発 立川駅	令和6年10月22日~12月1日	ラウンジ
写真展 なつかしの立川	令和6年12月17日~2月16日	廊下掲示板
企画展 暮らしのなかの道具たち	令和7年1月15日~2月16日	特別展示室
ミニ企画展 桃の節句	令和7年2月4日~3月9日	ラウンジ

# 普濟寺国宝石幢を守り伝えていくこと

龍谷大学大学院文学研究科日本史学専攻博士後期課程  
大西 功紗

## はじめに

立川市柴崎町に所在する玄武山普濟寺は、1353年に立川一帯を領有していた武士である立川宮内少輔宗恒たちかわ く ないしょうゆうむねつねが神奈川県鎌倉市にある建長寺の高僧である物外可什もつがいかにしゅうを招いて開山された臨済宗建長寺派の寺院です。この普濟寺が所有する国宝石幢せきとうは1361年に建てられました。

本稿では、2024年度に令和期修理が終わった石幢について改めて学ぶとともに、石幢などの文化財、文化遺産を守り伝えていく意義について一緒に考えていく機会となることを願い、論じてみたいと思います。

## 1. 近代までの石幢

石幢は、幅約42cm、総高約205cmの6枚の緑泥片岩の板石りよくでいへんがん いたいしを六角形に組み合わせ、この板石に設けられた柄ぼせを笠石かさいしおよび台座に彫られた柄穴ぼせあなに嵌入する形で固定されています。板石には仁王像（阿金剛・吽金剛）と四天王像（持国天・増長天・広目天・多聞天）が刻まれており、そのうち広目天像の右下には「延文六年辛丑七月六日 施財性了立 道圓刊」という銘文が刻まれています。このことから、石幢は1361（延文六）年に性了（物外可什の弟子）らによって建てられたと考えられています。

1834年に刊行された『江戸名所図会』に普濟寺境内の地図や石幢の板石に掘ら

れている図像の模写が掲載されていることから、普濟寺そして石幢は既に名所だったということが考えられます。また石幢に関しては「尋常の石工の手に出づるものにあらず。極めて巧妙なり」と言及されており、石幢の技術の高さが注目されています。さらに、松平定信が編纂した『集古十種』しゅうこじっしゆ（1800年頃成立か）やお田南畝おたなんほによる『南畝莠言』なんほゆうげん（1817年刊行）には、特に石幢にフォーカスした内容が掲載されていることから、石幢は文人たちにも深く愛されていたことが分かります。



芝  
普  
崎  
石所年境濟  
塔の間内寺  
を六にに  
存面制延  
せのす文  
りる



『江戸名所図会』第七卷第十冊  
（編：松濤軒斎藤長秋しょうとうけんさいとうちやうしゅう・画：長谷川雪旦が ほせがわせたん、  
須原屋茂兵衛すはらやもへいほか、1834年、二十二頁裏・二十三頁表、立川市歴史民俗資料館所蔵）

『江戸名所図会』挿入の普濟寺境内の地図には、「六角塔」、つまり石幢の所在も記載されている

## 2. 近代以降から終戦までの石幢

明治の世に入り、文明開花を推進した日本では、西洋から新しい文化が多く流入した一方で、日本の伝統的な文化の維持は危ぶまれることになりました。江戸時代に多くの寺院の支援者だった武士たちが幕藩体制の崩壊によって没落したことや、神仏分離令（1868年発布）によって<sup>はいぶつきしゃく</sup>廃仏毀釈が起こったこと、また社寺領上知令（1871年発布）によって寺院そのものの経済基盤が弱体化したことなどの理由が複雑に交錯し、多くの寺院が境地に追い込まれる事態となりました。

このような影響を受けて、政府は1871年に<sup>こききゅうぶつほぞんかた</sup>「古器旧物保存方」を布告し、日本国内にある宝物の把握を目的とした調査の実施を推奨しました。次第に国単位での古社寺の宝物や建造物の保存を訴える動きが奈良や京都を中心に本格化していきました。その結果、日本における文化財保護の礎となった法律である「古社寺保存法」が1897年に制定され、その制定をもって日本における「国宝」という概念が成立しました。なお、国宝という言葉は戦後に成立した「文化財保護法」でも使用するため、「文化財保護法」の成立以前は「国宝」、「文化財保護法」成立後は国宝と、本稿では国宝の記載を使い分けようと思います。

石幢は1913年に「国宝」に指定されました。この頃、日本の文化や伝統を守ろうという運動が日本各地で起こり始め、1919年に「史跡名勝天然記念物保存法」が制定されました。そして、「古社寺保存法」は、その名の通り古社寺の宝物や建造物を中心に保護するための法律であったことから、対象範囲を広げることが

第一目的として、1929年に「国宝保存法」が制定されました。さらに、「国宝」以外の美術品の海外流出を防ぐために、1933年に「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」が公布・施行されました。

なお石幢は、1923年に発生した関東大震災によって、下段の笠石や板石の下柄が折損し、倒壊しました。その後、石幢を再造立する修理が行われ、1927年には修理に関する報告書が出されました。



「国宝」に指定された頃に撮影されたと考えられる写真

（「武蔵国普濟寺国宝繪葉書」、普濟寺発行、大正～昭和初期カ、立川市歴史民俗資料館所蔵）

## 3. 戦後の石幢

終戦後、日本は大きく変革していきましたが、これは文化財においても同様でした。1949年に法隆寺金堂壁画が焼損するという大事件の発生を大きな契機として、現在施行されている「文化財保護法」が1950年に制定されました。この

法律は、「国宝保存法」、「史跡名勝天然記念物保存法」、「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」の3法を統合し、これらの法律で保護対象となっていた有形文化財と史跡名勝天然記念物に、無形文化財や埋蔵文化財も保護対象に追加される形で成立しました。現在はさらに保護対象の範囲が広げられ、民俗文化財、文化的景観、伝統的建造物群も含まれています。

さて、石幢は1953年に国宝に再指定されましたが、これは、「文化財保護法」の成立過程で、GHQの民間情報教育局美術課が文部省に対して、「国宝」および重要美術品等の件数が多すぎるため整理するべきであるという課題を与えたことに起因しています。その結果、「文化財保護法」では、有形の文化財の中で重要なものを重要文化財、そしてこの「重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいない国民の宝たるもの」を国宝に指定することが出来るという概念が成立しました。こうして、文化財保護法が施行された後、戦前に「国宝」に指定されていたものは一旦全て重要文化財に移行し、その上で特に価値が高いと判断されたものを新しく国宝に指定されることになりました。つまり、石幢は戦後の「国宝」の整理においても、世界的に価値が高く国民の宝であると認められ、再度国宝に指定されたのです。

ちなみに、石幢は国宝・重要文化財の中でも考古資料というジャンルで国宝に指定されており、考古資料として指定されたものの中で一番新しいものです。また現在日本国内にある国宝1149点の

うち、考古資料で国宝に指定されているものは51点しかありません。さらに、東京は日本で最も国宝を所有していますが、その多くは絵画や彫刻など持って運べる動産文化財で、不動産の国宝は、建造物として指定されている正福寺地蔵堂（東村山市所在）、旧東宮御所赤坂離宮（港区所在）、そして石幢の3点のみです。つまり、石幢は時代を通して大切に守り伝えられてきた類稀な逸品だと言えます。

#### 4. 石幢の今

最後に、筆者は文化遺産学および文化財の保存修復科学を専門としておりますので、文化財を守るという立場からお話をさせていただきます。

国宝石幢の令和期修理が2024年度をもって終了しました。2025年度には国宝石幢の特別公開が開催されたため、本稿を読んでくださっている方の中には修理後の石幢を目にされた方もいらっしゃるのだと思います。今回の令和期修理は、石幢が安置されていた一帯が2018年1月に土砂災害警戒区域に指定されたため、国宝石幢を安全な場所に移設して保存することが計画されたことを契機としています。この移設にあたって調査が実施されたところ、石幢本体に破損が確認されました。また関東大地震後に実施された大正期の修理記録が不明瞭だったことから、この当時使用された修理材料の腐食等によって石幢本体の安全性が危惧されていました。もちろん昭和期にも修理は行われていましたが、笠部や幢身など部分的な修理にとどまっていたことから、大正期修理以来の解体修理

という大規模な修理を実施することになりました。令和期修理および移設事業の詳細は近日発行される報告書に譲りますが、解体修理の実施によって、大正期修理で使用された材料や技術など多くのことが詳らかとなりました。

そして、今回の令和期修理は美術院国宝修理所の技術者の方々なしでは語りできません。美術院国宝修理所は、「古社寺保存法」が制定された翌年の1898年に、美術品の製作を行う一方で、「国宝」に指定された木造の彫刻の修理を行う団体「日本美術院」を岡倉天心が創設したことを起源とします。現在までに平等院鳳凰堂の阿弥陀如来坐像（定朝作）や東大寺南大門の金剛力士（仁王）像（運慶・快慶作）など主に誰もが知っている国宝・重要文化財の仏像修理を専門とする日本で最も歴史のある技術者集団です。そして言うまでもなく、日本で最高峰の保存修復技術を持つ工房です。石幢の修理は美術院国宝修理所の技術者の皆様によって行われました。美術院国宝修理所の皆様には心より感謝申し上げます。



修理後の石幢(2024年撮影、写真提供普濟寺)

## 5. 石幢、文化財を守り伝えていくこと

ものは保管しているだけでは劣化していくというのが自然の摂理です。それはもちろん文化財も同じです。特に木で作られたものの多い日本の文化財は、劣化のスピードが非常に速いと言えます。しかし、これまで何百年、何千年の時を超えて現在にまで守り伝えることが出来ているのは、先人たちはもちろんのこと、美術院の皆様をはじめとする多くの技術者の皆様が定期的に修理に励んでくださったからこそその結果です。しかし、現在少子高齢化や都市集中による過疎化など日本が抱える多くの課題から、伝統文化の担い手、つまりは日本文化を支える後継者不足が問題視されています。このような状況は、明治初期の日本文化の危機と同じぐらい危険な状況だと筆者は感じています。

日本にとって大切な文化財を後世へ守り伝えていくためには、作品自体を多くの方が見て、感じて、そして愛していただくことが非常に大切だと考えています。つまり、文化財にも「推し活」が重要なのです。そのため、まずは、修理を終えた国宝石幢をぜひとも多くの方々に見ていただき、このようなものが立川の地で大切に残されてきたということを知っていただきたいというのが修理事業に関わったものの1人としての心の底からの叫びです。そして、もし可能であれば、これを機に、さらに他の作品にも関心を持っていただけますと幸いです。本稿が誰かの、そして何かのきっかけに繋がることを願い、本稿を閉じさせていただきます。

# 令和7年度 歴史民俗資料館の催し

## 歴史民俗資料館 令和7年度行事・活動一覧(企画展の副題は省略)

	企画展・体験学習・講演会など
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ企画展「端午の節句」(4/8～5/6)</li> <li>・根川と多摩川の自然観察(4/9)</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内文化財散歩「玉川上水を歩く」(5/11)</li> <li>・いきもの展示「蚕ってどんないきもの？」(5/16～6/29)</li> <li>・企画展「新収蔵品展」(5/20～8/31)</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験学習「手打ちうどん作り」(6/1)</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ企画展「七夕飾り」(7/1～7/8)</li> <li>・ミニ企画展「立川の戦後80年」(7/23～9/15)</li> <li>・体験学習「植物染め体験」(7/6)</li> <li>・「ニホンゴ探検2025」(7/5)</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第24回はた織りまつり・夏(8/24)</li> <li>・出張企画展「市指定有形文化財「立川村十二景」とその作者・馬場吉蔵」(8/19～8/25)</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館実習生写真展「立川駅前の移り変わり」(9/6～10/5)</li> <li>・体験学習「手打ちうどん作りと十五夜飾り」(9/14)</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉川上水沿いの自然観察(10/15)</li> <li>・東京文化財ウィーク2025 公開事業「銅鉦鼓展」(10/21～11/24)</li> <li>・企画展「甦る六面石幢」(10/21～12/7)</li> <li>・ミニ企画展「立川の遺跡2025」(10/21～12/7)</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内文化財散歩「立川の古村を歩く」(11/3)</li> <li>・企画展関連特別公開事業 国宝「六面石幢」特別公開(11/1～11/2)</li> <li>・企画展関連講演会「普濟寺国宝石幢の保存と修理」(11/16)</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真展「たちかわの昭和100年」(12/2～3/15)</li> <li>・体験学習「餅つきと鏡餅作り」(12/21)</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験学習「繭玉飾りと七草粥作り」(1/12)</li> <li>・企画展「暮らしのなかの道具たち」(1/20～3/15)</li> <li>・ミニ企画展「TACHIKAWA コレクション」(1/20～3/15)</li> <li>・清瀬市郷土博物館×立川市歴史民俗資料館開館40周年コラボ企画展(1/20～3/15)</li> <li>・第38回多摩郷土誌フェア(1/17～1/18)</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験学習「手打ちうどん作り」(2/15)</li> <li>・ミニ企画展「桃の節句」(2/10～3/8)</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内文化財散歩「柴崎分水を歩く」(3/15)</li> <li>・第25回はた織りまつり・春(3/22)</li> <li>・出張企画展「たちかわの昭和100年×立川歴民40周年記念」(3/23～3/27)</li> </ul>

## 歴史民俗資料館 年間行事・活動の紹介

◎以下、本年度の歴史民俗資料館の活動事業の一部を紹介します。

### ☆企画展「甦る六面石幢」

市内柴崎町の玄武山普濟寺に伝わる国宝「石幢」(六面石幢)は、令和元年(2019)から同6年(2024)にかけて修復事業を実施しました。この修復の完了を記念して、本年度秋に企画展を実施し、国宝「石幢」が歩んできた歴史と文化・信仰、そして現在に至るまでの保存活動の展開について紹介しました。

また、この企画展に関連して、11月1・2日の二日間にわたり、普濟寺で国宝「石幢」の一般公開を実施するとともに、11月16日には「石幢」修理事業に携わった北野信彦氏(龍谷大学教授)と大西功紗氏(同大大学院博士後期課程)の2名を講演者としてお招きし、企画展関連講演会「普濟寺国宝石幢の保存と修理」を開催しました。



### ☆写真展「たちかわの昭和100年」

昭和から続くこの100年間は、立川の街においても苦難や変革、発展が折り重なる激動の時代でした。そのような目まぐるしい変化のなかでも、人々は柔軟に状況に適応し、苦難や困難を乗り越え、努力しつづけて現在のわたしたちが知る立川の街が形づくられています。

令和8(2026)年、「昭和100年」となる機会に、先人たちが切り拓いてきた立川発展の歴史を写真で振り返りました。



### ☆清瀬市郷土博物館×立川市歴史民俗資料館 開館40周年コラボ企画展

清瀬市郷土博物館と立川市歴史民俗資料館は昭和60(1985)年にとともに開館し、令和7(2025)年で40周年を迎えました。多摩地域では比較的古い段階で開館した両館は、多くの地域資料を所蔵し、企画展や体験学習事業など様々なイベントを開催してきましたが、相互協力しての館活動はこれまで行ったことはありませんでした。今回、開館40周年を記念して両館所蔵資料に共通する織物文化をテーマとしたコラボ企画展示を行いました。



# 令和7年度 川越道緑地古民家園の催し

## 古民家園 令和7年度行事・活動日程

	企画展・体験学習など
4月	古民家園茶たて事業(4/20) ミニ企画展「端午の節句」(4/8～5/6)
5月	古民家園茶たて事業(5/17) 体験学習「麦刈り体験」(5/25、荒天のため中止)
6月	体験学習「麦脱穀体験」(6/22)
7月	ミニ企画展「七夕飾り」(7/1～7/8)
10月	古民家園茶たて事業(10/25)
11月	体験学習「収穫祭 2025」(11/9、荒天により11/15に延期) 古民家園茶たて事業(11/30)
2月	ミニ企画展「桃の節句」(2/10～3/8)

## 古民家園 年間行事・活動の紹介

◎以下、本年度の古民家園の活動事業の一部を紹介いたします。

### ☆体験学習「収穫祭 2025」

毎年、古民家園では園内の畑で麦とさつまいもを栽培し、それを市民の方々に収穫してもらって体験学習を開催しています。小麦の種を前年の11月に蒔き、およそ半年かけて生育させ、5月に刈り取り、6月に脱穀作業をそれぞれ行います(本年の麦刈り体験は荒天により中止)。

例年では麦刈り後にさつまいもを作付けしていましたが、近年の猛暑でさつまいもの生育が難しいことから、本年は落花生の作付けを講師の指導の下、実施しました(右写真)。落花生栽培は今回が初めての事業であり、生育した落花生は11月の体験学習として、「収穫祭 2025」と題した収穫体験を催しました。



## 資料館だより 第30号

発行日 令和8(2026)年3月31日  
編集・発行 立川市歴史民俗資料館  
(立川市教育委員会教育部生涯学習推進センター文化財係)  
住所 〒190-0013 立川市富士見町3丁目12番34号  
TEL 042-525-0860 / FAX 042-525-1236

バックナンバーは  
こちらをご覧ください

